

和琴半島自然探勝路―地熱がつくる生態系

和琴半島は、日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖に突き出しています。この自然探勝路は、アカエゾマツの森から、カツラの巨木を経由して、オヤコツ地獄まで、半島を一周する 2.5 キロのコースです。オヤコツ地獄は、水面で熱湯が岩肌に泡立ち、岩壁の割れ目から蒸気が噴き出す、湖に面した岩だらけの崖です。このエリアの地熱活動が生み出す熱は、周辺の森の生態系に直接影響を及ぼしています。野の花が豊かに育ち、夏にはセミが鳴き、また、暖かな微気候により、植物が育成している所に住む、こおろぎの仲間であるマダラスズが寒い冬でも活発に活動しています。

その他に注目すべき野生生物はクマゲラです。日本の先住民族アイヌの人たちは、クマゲラを「カヌー作りの神」として崇拝していました。言い伝えによると、アイヌの人々は、クマゲラによって木の幹に作られた穴に着想を得て丸木舟（伝統的なアイヌのカヌー）を作ったとされています。和琴自然探勝路は約 1 時間のコースで、起伏のある場所もあり、場所によっては、かなり急になっている所もあります。半島を時計回りに巡ると、オヤコツ地獄まで下る長い木製の階段があります。登山口には天然温泉があり、半島を回った後、そこでリラックスする事ができます。時計回りでも、半時計回りでも半島を巡る事ができますが、オヤコツ地獄近くの長い階段を考えると、時計回りの方が、比較的楽なコースと言えるでしょう。